

3月定例自然観察会報告書

六甲山自然案内人の会(担当 ; 3班)

1. 日時 ; 3月12日(日)、集合午前9時30分、解散午後2時30分
2. 場所 ; 再度公園周辺散策道 (鍋蓋山、縦走路、洞川梅林ほか)
集合・解散場所 ; 「水源池前」バス停付近広場
3. テーマ ; 「再度公園の裏道を歩く」
4. 参加者 ; ビジター40名、メンバー38名 (うち3班20名)、合計78名
班割1班7名、2班11名、3班10名、4班12名 (説明者各班1名)、
+案内人の会他班メンバー18名 (説明引率者1名)
5. コース ; 水源池バス停付近出発 (09:40) ~ 桑の木工房 (10:30) ~ 鍋蓋北道 ~
縦走路 ~ 鍋蓋山 (11:40) ~ 縦走路 ~ コドラート ~ 再度公園 (12:20~13:30 うち休
憩 30分) ~ 仙人谷・洞川梅林 ~ 鍋蓋北道・牛の背 ~ 水源池バス停付近到着 (14:20)
6. 所要時間 ; およそ5時間、歩行距離 ; 約5.5km、
7. 観察会の概要

「快晴微風、絶好のコースコンディション、あとは腕次第。」とはかつてよく聞いたことのあるフレーズだが、まさしくそのとおりの素晴らしい天候のもと、3月度の定例自然観察会が開始された。天気の良いさに影響されたか、説明者はもちろん担当班員には少なからず高揚感が感じられた。「説明の神が降りてくるのを待っている…」とはある説明者の弁であるが、その意気込みには感服させられた。

予定時刻の午前9時半になり、中島班長の挨拶および説明、体操の後、1班から順にスタートしていった。

神戸聖地霊園までの舗装道路は歩きやすい反面、日曜日のためかお参りのマイカーが多く、事故等がないよう気を配った。そこを過ぎたあたりからはゆっくりと各班説明者の持ち味を発揮しながら、順調に案内が続けられた。

途中、ビジターの一人が別のビジターに「ルーペの見方」を教える場面もあり、初対面のビジターの皆さんも徐々に打ち解けている様子であった。

その後も順調に鍋蓋山へ向い、縦走路に差し掛かるあたりからやや落伍気味のビジターが4~5名散見されたが、なんとか全員で鍋蓋山からの眺望を見ていただくことができた。

鍋蓋山を折り返し、今度は込み合う縦走路を尻目に左折れし、コドラートから再度公園に至る裏道に抜け、コドラート法による永久植生保存区の説明のあと公園に入った。

約30分の昼食休憩の後、説明担当より再度公園の植林や動植物にまつわる解説があった。

午後からの案内は公園内のシナマンサクから始まったが、コース内で唯一満開であったこともあり、ビジター一同写真を撮りながらしばし見入っていた。次の洞川梅林では、梅はまだ3分咲きというところでやや迫力に欠けた感があったが、それでもほのかな香りを漂わせ、その風情を醸し出していた。梅林を出たところをすぐ左に折れ、コース最後の急坂を上って朝歩いた鍋蓋北道に戻った。牛の背に入ってから、「連理の枝（ソヨゴ）」の説明があり、ようやく帰路についた。

バス停に近い有馬街道沿いの広場にて員数確認の後、解散となった。

本日タイムキーパー役の筆者は説明者を追い立てるばかりで一日中恐縮至極の気分であったが、やはり時間通り戻ってこられたことにホッと胸をなでおろした。天気も良く、全員無事帰還できたことで今回の定例自然観察会はハナマルとしたい。「皆様、大変よくできました!!」

8. ビジターの声

- ・樹木に雌雄があることを知らなかった。
- ・(せっかくカメラを持ってきたが、) とるべきもの(花?)がほとんどない。
- ・(いろいろ教えてもらって) 頭の中がパンクしそう…。
- ・裏道コースは歩いたことがなかったのでとても楽しい。
- ・すがすがしい空気の中でのお弁当が一番の楽しみ。
- ・(エキスパートのチラシを手にしながら) 歴史は好きだけど、植物は苦手。
- ・ムラサキシキブとヤブムラサキの見分け方を以前教えてもらったことがあり、今回その通りだったのでうれしい。
- ・(梅林にて) コーヒーでも沸かしながら梅を眺めていたい。 …etc.

9. 説明者の感想(気づき)ほか

- ・小道具の準備と活用…ヤマコウバシのお守り、トウネズミモチ茶・クロモジ茶、クロモジ小枝(香り)、各種写真・習字等を説明者各自が思い思いに用意し、ビジターの五感に訴求したことは少なからず成果をあげた。特に冬芽のシーズンは言葉だけの説明では限界があり、説明ツールや小道具の作成は欠かせないという説明者の意見が多かった。

(参考; ビギナーガイドの気づき)

私は今回は去年よりは下見に参加する回数があったと思います。

けれど、実際に自分の口で説明するにはやっぱり難しいです。口に出すと「あれ? これはほんとの事だったかな」とかいろいろ考えなければなりません。1つの事を説明するのに色んな事を知っておかないとならない事を思い知るのです。脳の容量が足りませんね!

勉強不足を補うために、ビジターには「何をもって楽しいと感じてもらおう」かを考えます。植物について詳しく学べなくても、コースの魅力なところや、こ

のような会に1人で参加しても不安なく最後まで過ごせたこと、1つだけ記憶に残る体験など感じてもらう事など、あれば良いかなと。

難しい事はサポートの先生（今回Kさん）へ振ろう、そんな事で自分へのプレッシャーは和らげました。（頼り過ぎてすみません）私は下見の甲斐なくコース上での興味深い事も見落とししていましたし、間違っただけも言いましたし、反省。

案内する役になった場合は“聞く下見”を数こなすより、ガイドツアーをシュミレーションする練習をして、自分の興味を確認して、伝えたいけどわからない事を調べる事が大切だなと思いました。

牛の背への入り口で、落葉の実生の木を囲みヤマハゼかどうかを確認する機会がありました。覚えていないので説明できない私はビジターさんと一緒に、本を見ながら冬芽と葉痕をチェックしました。「さっと、教えられないのは恰好悪いかも」「少し時間がかかることは嫌がるかも」などと頭でよぎるのですがここは、わからないもの同志で調べたのです。しかしこのような作業への反応が良かったように感じました。じっくり観察して、ああそうか！と思いが楽しい事は共通なのだと気づきました。

こちらも、ビジターもわかったようにやり過ごしてしまう案内でなくて、疑問が残る観察会でもいいのかな、とも思いました。（と言いつつ、物知りでなんでも教えてくれる人に会おうとうれしいし満足しますが！）

最後に ビギナーガイドはとても疲労します！帰宅後、何時間も寝ました。

10. 今後の課題

- (1) 参加人数の伝達…参加者全体人数はもとより、班別人数も安全上、頭に入れておく又は記録しておくべき大事なデータであり、スタート前に担当者全員で確認する必要があった。
- (2) 増加するメンバー参加者への対応…会メンバーの増加に伴い、観察会 当日のメンバー参加者も増加しており、その案内役に十分な員数を割り振れなかった。「六甲山自然案内人の会 3 班」としては自主研修会で予行演習もかねてメンバーへの案内を実施していることから、一策ではあるが観察会当日のメンバー参加者には道案内のみ行い、それぞれ自主研修にとどめていただくことで、ビジターの案内に全力を注ぐこととしてはいかがか？
- (3) アクセス（バス）方法と受付（場所）の関係…アクセス方法がバスに限定される場合、ビジターが短時間に受付に集中するため、受付要員を多めに確保する必要あり。受付場所も広めが必要。また、特に（往き）バスで時間がかかる場合、バスに弱い方が参加を見合わせるケースも考えられ、参加者減のリスクあり。
- (4) 所要時間、歩行距離、最大高低差等の事前告知…ビジターが自身の体力に問題ないか判断できるようなデータを事前にお知らせしておく必要はないか？特に夏場。
- (5) コース内のイベント事前調査…大きなイベント（今回「六甲縦走」）と重なると観

察会どころではなくなる。接触事故やけがのリスクを回避するため、イベントの事前調査は必要。

1 1. 植生一覧

アオキ	キリ	スイカズラ	マサキ
アオツツラフジ	キンモクセイ	スギ	マテバシイ
アカガシ	クサイチゴ	スダジイ	マユミ
アカマツ	クスノキ	スノキ	マルバアオダモ
アカメガシワ	クヌギ	ソヨゴ	マンサク
アクシバ	クリ	タカノツメ	ミツバアケビ
アセビ	クロガネモチ	タニウツギ	ミヤマウグイスカグラ
アラカシ	クロモジ	タムシバ	ミヤマガマズミ
イヌザンショウ	ケヤキ	タラノキ	ムベ
イヌシデ	コアジサイ	テイカカズラ	ムラサキシキブ
イヌツゲ	コウヤボウキ	トウネズミモチ	モチツツジ
イロハモミジ	コウヨウザン	ナガバモミジイチゴ	モミ
ウグイスカグラ	コクチナシ	ナワシロイチゴ	ヤツデ
ウツギ	コシアブラ	ナワシログミ	ヤブコウジ
ウバメガシ	コナラ	ネジキ	ヤブツバキ
ウラジログシ	コバノガマズミ	ネズ	ヤブニッケイ
ウラジロノキ	コバノミツバツツジ	ネズミモチ	ヤブムラサキ
ウリハダカエデ	コブシ	ハゼノキ	ヤマウグイスカグラ
エノキ	ゴンズイ	ヒイラギ	ヤマウルシ
オオバヤシャブシ	サルトリイバラ	ヒサカキ	ヤマコウバシ
カゴノキ	サンシュユ	ヒノキ	ヤマザクラ
カナクギノキ	シナマンサク	ヒメコウゾ	ヤマナラシ
カナメモチ		ヒメヤシャブシ	ヤマハゼ
ガマズミ	シラカシ	フサフジウツギ	リョウブ
カラスザンショウ	シロダモ	フタタビコスズ	ハクモクレン
カラマツ	シロバナウンゼン	フユイチゴ	

1 2. 観察風景



以上